

北海道乳牛市場の初妊牛価格の推移

おかやま酪農業協同組合

経済部流通課 井上 哲雄

1) はじめに

北海道からの乳用初妊牛導入は、飲用乳の消費低迷から、2年連続の減産型生乳計画を強いられるなか、中販連共販体制整備のため良質乳の生産と酪農経営の安定を図ることを目的として、毎年度約750頭の優秀な乳用牛の導入を行っています。

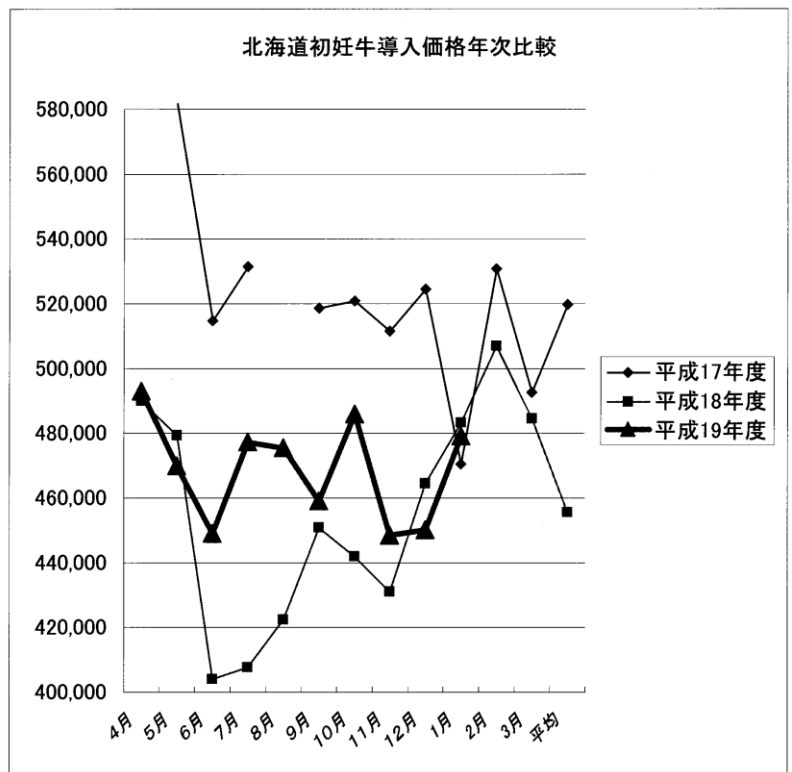
今年度については、計画生産枠に対して、未達となる予測のもと、上期生乳生産向上を図るため、上期380頭(前年対比160%)を意欲的に導入を行っております。

表-1

おか酪 年次別平均導入価格

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	頭数
4月		489,956	492,989	37
5月	581,706	479,322	469,945	106
6月	514,725	404,017	448,939	36
7月	531,366	407,703	477,225	3
8月		422,432	475,444	107
9月	518,635	450,837	458,969	91
10月	520,846	441,963	485,883	73
11月	511,520	431,091	448,382	76
12月	524,426	464,399	450,101	65
1月	470,468	483,235	479,070	65
2月	530,769	506,958		
3月	492,541	484,476		
平均	519,700	455,532		
導入頭数	757	745		659

※ 北海道現地平均価格・処理月のデータです。



2) 導入牛価格の推移

おか酪が導入を行った、この3年間の導入価格の推移は、表1に示す通りです。

平成17年度の価格は、47万円～58万円平均価格:52万円、平成18年度に於いては40万円～50万円平均価格:45万5千円、前年度対比6万5千円安で、減産型の生産計画の影響が顕著に現れています。

買付の内容は、市場購買が約90%・ホル腹は1割弱です。

飼料・生産資材・原油価格等の高騰により、生産コストの削減は限界に達する反面、仔牛価格は下落し、初妊牛の価格上昇に歯止めがかかることに期待をしたいと思います。

3) 北海道初妊牛の価格動向

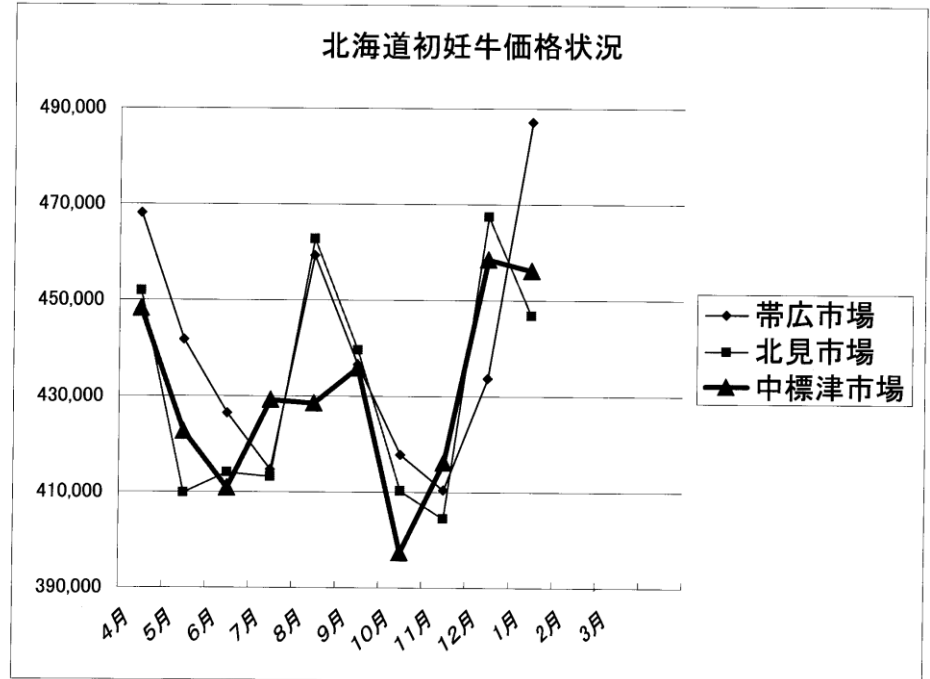
今年度、北海道初妊牛の市場価格について出場頭数の多い、帯広・北見・中標津の3市場について、表2の通りまとめてみました。

府県による需要が春産み需要期を控えて除々に活発化した、12月の平均価格：451千円で前月比31千円高・前年比14千円安で推移しました。

平成19年度北海道乳牛市場初妊平均価格(税込)

表-2

19年度	帯広市場	北見市場	中標津市場
4月	468,114	451,921	448,276
5月	441,781	409,791	422,629
6月	426,472	414,089	410,864
7月	414,677	413,244	429,249
8月	459,240	462,738	428,534
9月	436,549	439,629	435,913
10月	417,762	410,256	397,356
11月	410,410	404,499	416,155
12月	433,735	467,363	458,452
1月	487,130	446,792	456,145
2月			
3月			



4月については、計画生産がらみから府県の導入需要が減退したが、前年比3千円高で推移した。6月、7月については、夏産みを中心となり弱含みでの取引でありました。8月に入り秋産みの導入と搾乳資源確保の為道内の需要が活発化したことから、平均価格：454千円・前年対比36千円高での取引でありました。9月・10月については、昨年の猛暑の影響により、分娩期が集中したことから出場の頭数が増加する一方、道内需要が堅調に推移しました。また、下牧時期を控え出回り頭数が増加したことから、弱含みの価格でありました。

4) 今後の動き

道内各家畜市場の出場頭数及び購買者数による平均価格差は、16千円～48千円です。

初妊牛の取引価格決定の要因として、F1腹の位置付けがありますが、仔牛の値下がりの影響もあり F1腹・ホル腹の価格差は少なく逆にホル腹が高い場面も見受けられます。

今後の価格動向と予想相場としては、平成20年度生乳生産計画との絡みから引き続き、府県の需要が見込まれ強含みでの価格推移が予測されます。